



会場風景

2018年1月20日(土)、松山リハビリテーション病院にて第8回愛媛県支部学術集会在開催されました。「地域医療と介護、それぞれの役割と連携～

平成30年度診療報酬&介護報酬同時改定にむけて～」をテーマに掲げ、県内全域から141名の参加をいただきました。特別講演Ⅰとして、松山東雲女子大学・松山東雲女子短期大学学長の塩崎 千枝子先生より「協働の社会づくり」と題して講演を賜り、引き続き特別講演Ⅱとして、愛媛大学大学院理工学研究科の岡本伸吾教授より「人工知能(ディープ・ラーニング)の医療および介護分野での活用」のご講演を頂きました。また、午前と午後で計7セクションに分かれて行われた一般演題でも35題の発表と活発な討議が行われました。

今回は同日に複数の学会が並行開催される中での学術集会となりましたが、学会会員の方のみならず多くの学会非会員の皆さんにもご参加頂き、今後我々が果たすべき役割についてより一層の理解を深めるきっかけにできたと思います。最後になりますが、本会の開催にあたり様々な形でご支援とご尽力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

第17回福井県支部学術集会

学術集会会長：福井総合病院副院長 勝尾信一

2018年2月3日(土)、福井医療大学江上ホールにおいて、日本医療マネジメント学会第17回福井県支部学術集会在開催し、県内より62名のご参加をいただきました。今回のテーマは「地域包括ケアを支えるIPW(Inter-professional Work)・IPE(Inter-professional Education)」としました。特別講演は、首都大学東京の浅川康吉先生「地域ケア実践のための多職種連携」と題し、ご講演いただきました。シンポジウムでは、「各施設におけるIPW・IPEの現状と問題点」をテーマに、その枠を病院から地域に広げ、地域包括ケアを進めていくために、IPW・IPEがいかに重要か、その現状と展望を、急性期病院および地域での実践から基礎教育における実践までを含めて議論しました。また、医療・ケアの現場からの一般演題(口演)4題の発表もありました。いろいろな環境で働く多職種の話を聞いて議論することで、明日の医療の質の向上に結び付いたのではないのでしょうか。

最後に、皆様のご協力のお蔭で無事に会を終了することができましたことを厚く御礼申し上げます。

第13回和歌山支部学術集会

学術集会会長：公立那賀病院院長 中尾大成

2018年2月3日(土)に和歌山県勤労福祉会館(プラザホープ)を会場として、日本医療マネジメント学会第13回和歌山支部学術集会在開催いたしました。

当日は、県内全域から313名のご参加をいただくことができました。

今回は「最適な医療と介護の連携を目指して」をメインテーマとして、講演3題、一般演題発表(口演44題、ポスター22題)が行われました。

特別講師として3名の先生方をお招きし、特別講演1では「安心・安全な医療を求めて～適切な精神科医療の提供を～」と題して、全国自治体病院協議会副会長・地方独立行政法人岡山県精神科医療センター理事長兼名誉院長の中島豊爾先生に、また特別講演2では「地域包括ケアの推進と医療・介護保険制度改革」と題して、神奈川県立保健福祉大学名誉教授の山崎泰彦先生に、そしてランチオンセミナーでは、「ロコモ、サルコペニア、フレイル～栄養と運動の立場から～」と題して、帝塚山学院大学学長の津田謹輔先生にご講演いただき、すべての講演が大盛況でありました。

一般演題発表(口演・ポスター)についても充実した内容で、各施設や行政等の取り組みについて活発な意見交換をしていただきました。

最後に本学術集会在盛会のうちに終了できましたことをご協力いただきました関係各位に深く感謝を申し上げ開催報告とさせていただきます。

第7回群馬県支部学術集会

学術集会会長：桐生地域医療組合桐生厚生総合病院院長 桑島 信

2018年2月4日(日)、快晴の中、桐生市民文化会館スカイホールにおいて、「地域医療の絆を紡ぐ～統合への現在・過去・未来～」をテーマに、第7回群馬県支部学術集会在開催しました。

当日は、医師、看護師、薬剤師はもとより、ケアマネジャー、訪問看護師など多職種の342名の方に御参加いただきました。



会場風景



会場風景